

「東京防災」・「東京くらし防災」編集・検討委員会

(第1回)

〈第二部〉

議 事 録

令和5年2月14日(火)

第一本庁舎11階会議室

午後4時15分開会

○中林委員長 はい、それではちょっと時間が短縮しましたが、第二部を開始したいと思います。進行は第一部に続いて私の方で説明させていただきます。

それではこれから委員会を進めるにあたり、いろいろ諸注意を申し上げます。

本会は非公開で実施しておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いします。また、本委員会は防災ブックのリニューアルに関しての助言を行うというのが、本委員会の最大の目的になります。いただいた意見を全て反映できるものではないということではありますが、最大限の努力をお願いしたいと思います。

それでは、次第に従ってフリーディスカッションに移りたいと思います。

まずそれでは、フリーディスカッションに先立って事務局より論点を説明していただけますか。

○事務局 はい、今日の論点ですが、もちろんフリーディスカッションですけれども、少し事務局から論点を提示させていただきながら議論できればと思います。

今回見直しの対象となります、「東京防災」・「東京くらし防災」については、それぞれ作った時のコンセプトがございます。

「東京防災」については全世帯に配布し、多くの都民にしっかり防災知識を習得していただいて、行動に結びつけていただくというコンセプト。

二つ目の「東京くらし防災」については皆様にご協力いただき、女性視点でさまざま細かいところまで、いろんな視点で防災に取り組んでいただく。また、女性の防災への参画を進めていく。そういった視点で作りました。

今回はさらに、先ほど意見でもございましたけれども、外国人ですとか高齢者ですとか、多様な視点を盛り込みながら、相互理解が促進するようなものにしていければ良いかなというふうに考えておまして、特にこの現行からコンセプトを変更するものではないというところが前提としてございます。

今日の論点になりますけれども、一つ目が、ぜひ今日の委員のプレゼンテーションそれぞれお聞きになりまして、今回のブックに盛り込むことが必要であるというところを中心にぜひ御議論いただければと思います。

また、今回「東京くらし防災」も含めて全世帯への配布を予定しております。技術的などところで恐縮ですけれども、ブックの厚み、本の厚みなどもどうしても配布するに当たっていろいろございますので、記述を精査する、少し分量を減らす必要があるかとか、そういう重み付けなどについてもぜひご意見いただきたいなと思っております。

また、女性の視点に加えて、障害者や外国人など要配慮者の視点も反映していくという点がございますので、これらを同じ分量で入れてしまうと、どんどん分厚くなってしまいますので、どういうふうに重み付けで記載していくかということも、ぜひ専門家の皆様のご意見で考えていきたいなと思っております。

四つ目が、都民の自助共助を促すために、ぜひ行動に移すという話もありましたけれども、届いてからすぐに手にとって読んでいただける、こういったところも工夫していく必要があると思いますので、アイデアなどいただければと思います。

最後に今、黄色とピンクで冊子作っておりますけれども、より都民に馴染みやすいデザインですとか、カラー、こういったものはどのようなものが考えられるかというところでご助言いただければと思います。実は今それぞれ縦書き、横書きなどで書いているんですけども、これらも含めて、こうした方がいいんじゃないかとか、色ももう少し薄い方がいいんじゃないかとか、色も変えた方がいいんじゃないかとか、お考えがあれば、ぜひご提示いただきたいなと思っております。

事務局からは以上です。よろしくお願いたします。

○中林委員長 上二つの論点とはどういうことかという、盛り込むべき内容は多分話せば話すほど出てくるんですね。ところが、ボリュームが制限されるというか、どんぶりの大きさが決まっているので、何を入れるかっていう相矛盾する話にはなるんです。ただ、そのためには最初から絞り込むのではなくて、とりあえず厚みってことはちょっと置いて、どんなことが盛り込まなきゃいけないのか、これを作った時と今とでも状況が違うでしょうし、そういう意味ではまず一番目、今日本当に最初のフリーディスカッションですから、このブックに戻るべきこと、盛り込むべきことということで考えられることを全て出してみる。本を見ながら確認してってということではなく、今回は時間もないので良しとして、今各委員が思っている最も大事なことって何？ということ、まずお話しいただくことにしましょうか。

その中に二番目のような目線、これは内容の問題も若干あるんだけど、どういう対象を前提にするかっていう前提じゃなくて、すべての対象を前提にして、どの視点からも見せる、読ませるって話なので、プレゼンの仕方とかを含めた話になると思います。

そういう意味では、やっぱり一番目が我々集められて一番やらなきゃいけない、最初にやらなきゃいけないのは、さて今なら何が必要なの？ということかなと思いますので、そういうことでよろしいでしょうか。あいうえお順でよろしければ、池上さんから。

○池上副委員長 わかりました。今日のみなさんのプレゼンを伺っていて、鍵屋先生からトイレの話がありましたが、とても大事です。みんな「備え」というと食糧を真っ先に言うのですが、食べたなら当然トイレとなりますよね。食料は怪我もなく、生き残って初めて役に立つもので、その前の段階で大事なことは、とにかく生き残るための備えをすることです。繰り返しそのことは伝える必要があると思います。私、東京消防庁の地域の防火防災功労賞の審査員をしているんですが、とてもいい例があって、あれはぜひ写真で載せられたらいいと思っています。確か中高一貫校だったと思いますが、学校のトイレに日常から、災害後に使うトイレ用品が備えられているんです。これはすごいなと思いました。今回初めての事例でした。その写真を学校の了解を得て載せられたら、中学生、高校生も頑張ってる様子が伝わって良いと思いま

す。それで実際、自分のうちでもそれを見習って実践してもらいたいことと、私が所属している御茶ノ水にある東京YWCAは、普段からトイレのドアの内側に、座ると、ちょうど目の高さ、災害時にはこういうふうにしてトイレを使いますというのが、図解入りで貼ってあります。あれも啓発の一つで、ああなるほどと気づいてくれたらいいなと思います。そんなふうにならぬ身近なことで、トイレは必ず入れてほしいと思います。

それからもう一つ、缶詰とか、干物など、多くの保存食が沢山ありますが、それらを使って美味しい料理が作れるという紹介はまだ少ないように思います。

日本経済新聞の1月14日のプラス1というコーナーで、その作り方を紹介しているのですが、池上はその時の審査員のひとりで、20品目作られた料理から美味しいもの順に10品目選びました。非常に手軽で美味しいものができるので、そんなのも紹介できたらいいなというのが私の希望です。

○中林委員長 商品じゃなくて、一般化した形で書くことにはなるでしょう。たぶんこういう公共の出版物には商品は載せられないと思います。

えっと次はどなたですか。

○鍵屋委員 鍵屋です。たくさん申し上げたいんですが、やっぱり東京では今日マンションの話をしてるので、まずマンションの対策というのは「東京防災」だとこの1ページなんですよ（125ページ）。で、竜巻が2ページなんです（156～157ページ）。圧倒的に都民の過半数はマンションに住んでいます。特に都区内ですよ。マンションの人は屋内、在宅避難をするっていうことは決定的に重要なわけですから、そこを充実させる。例えば竜巻はあってもいいんですけど、これは本にするというよりも、もうQRコードでさらに詳しく知りたい方はっていう感じにして、薄くして。行動変容が大事なので、さっきトイレをつけるって言ったのは、冗談じゃなくて本当にそうなんです。呼び水効果ってありましてね、ちょこっと半歩でも動く、次の一歩が出るんですよ。池上先生から中学生の話がありましたが、大阪の企業さんですかね、一日分のトイレをカレンダーにして、トイレに貼れるようにしたものを売ってるというのもあって、その呼び水が必要だと思ったんですね。まだ知識なので、その行動変容につながる、中島さんがおっしゃったように、どうやったらその行動につながっていくか、富川さんがおっしゃったように、そのところが肝だと、行動変容にうまくつなげていきたい。そうするとあんまりたくさんしたこと書いてあると多分厳しいんだろうな、いろんなこと書いてあって厳しい。

もう一つは、個別性に配慮する。個別性に配慮するっていうのがミソですよっていうことで、さっき鈴木先生のご意見は全くそのとおりだなと思います。自分にとって関係ないな、置き去りにされたな、と思わせない。個別性に配慮してますよっていうことと、重要なものは何かっていうことを、非常に考えていく必要があると思います。あとは怪我しないためには、住宅の耐震化と家具の転倒防止が、中林先生もおっしゃっている、これはもう王道なんで

すけど、やってないんですよ。これをどうやったらできるか。東京消防庁も頑張っているいろいろなデータは出してくれてるんですけど、実際、じゃあ80歳の一人暮らしのおばあちゃんが、都営住宅の5階でやってるか。ほぼやってないですよ。私は福祉事務所長だったので高齢者のお宅にうかがうこともあったのですが、家具を留めたのを一軒だっただけで見たことないです。そこをどうやって進められるか、僕も良い知恵がないので、その辺は逆に皆様方に教えていただきたいんですけど、大事だっただけとは言えるんですけど、行動変容にどうこれと結びつけるかが重要です。

あと最後にもう一つです。私はいつも企業さんの人とかと話していて、非常に効果的なのは、一日の生活を書いてもらうことです。朝起きたらトイレ行って、トイレ行ったら水流れない、電気が通ってない、暗い時に起きたら見えない、じゃあどうしよう、これはもう備蓄するしかない。次に顔洗いたい、水がない。だけど、これはもしかしたらウェットティッシュがあると楽だね。ひげを剃りたい、ひげは諦めますか。歯を磨きたい、これは諦められないので、乾拭きでも洗口液と歯ブラシが必要というふうに、一日の行動全部書いてもらって、そこにこういうふうに必要な物が自分なりにできていくものです。自分だけのマイブックになっていくみたいなものがあれば良い。それは少なくとも企業に勤めている方々には非常に効果がある。それに多分障害のある方とか、LGBTQの人だとか、そういう人たちはどこで困るのかなというところを上手に手当てして一日の行動それぞれそれなりに書いてもらえれば、かなり有効なのかなと思います。問題はそこまでどう導けるかですけどね。その辺はぜひ中島さんのお知恵を借りて、自然にこう書ける、書きたいと思わせるような。

○中林委員長 はい、鍵屋先生ありがとうございます。呼び水効果というのは確かにあります。

○鍵屋委員 呼び水なんですよ。最初のチョロがあるとスッといくので、この本にトイレ付けてくれないかな。

○事務局 検討します。

○鍵屋委員 これはやるしかないでしょ。だってインパクト違うよ。トイレが付いたのが配られる。

○中林委員長 トイレもいろんなトイレがあって、これまで帰宅困難者対策として訓練するでしょう。ああいうのに駅前で訓練に参加した人に配っているのは、本当にポータブルな携帯トイレ。あれを1個配るだけで、「あ、こんなものなの。」っていうのがあって。それじゃドライブコーナで渋滞にはまって道の駅まで届かない時に子供におしっこさせる袋、それでいい

わけだから、そういうものを付けてあげればいい。あまり立派なものを付けるということではなくて。

○鍵屋委員 一番安いのはさすがにちょっと使いにくいので、これで5袋なんですよね。一人一日分なんですよね。カバーかける方式でこれはまあまあ使いやすい。使ったことはないんですけど、使いやすいんじゃないかなと。

○中林委員長 じゃ、富川さん。

○富川委員 はい。まず大前提として、私たちはずっとその防災に関わっている者たちで作るものなので、まずは全く防災を知らないという状態に頭をリセットして、そこから構成を作り上げるっていう視点がすごく大事かなというふうに思います。私たちがいろんな方々と対面して必ず感じることは、やっぱり想像力がなかなか防災に関しては、災害時のことに関してはネガティブなことなので、追いつかないというところがすごくあるなと思います。そこをいかに想像しやすいシチュエーションを作ってあげるかっていうのが非常に重要かなと思っています。今、この与えられた情報というのが、自分がどういう時に実際に使うものなのか、先ほど車の中の話ありましたけれども、車の中だったら自分は体験があるからわかりやすいというようなこともあるので、その事例だったりとか、そういったシチュエーションを、いろんな全世代の方が読むっていうことなので、なおさらですね、本当によりどんな人が読んでも分かりやすいってような文言であったり、そういうのも意識していきたいなと思うのと、あとは都民の皆さんが多分防災と聞いて混乱しやすいポイントとして、これは行動のことなのか、それとも備蓄のことなのか、さっき池上先生もおっしゃいましたけれども、食べ物はもしかしたら備えているかもしれないけど、じゃあどこに集まるのかとか、そういったルール作りだったりとかっていうのには、一切全く何もしてないっていうケースもあるかもしれない。そういった時も皆さんがこう見て分かるように、行動の防災と備蓄に関することで分けて考えられるような形も必要なのかなっていうのをちょっと思います。

あと非常に重要だなと思うのが、やっぱりタイムライン。時系列であること。咄嗟の行動なのか、それが咄嗟の時の備蓄なのか、それとも3日後なのか、一週間後なのか、数ヵ月後なのか、一年後なのかっていうところでも、そこはもう多分、防災というと全部皆さん咄嗟の行動と、事前にやるべきことと、数ヵ月後に起こることってというのが、多分もう訳が分からないって言って投げ出してしまうと思うので、時系列っていうのも非常にポイント、重きを置く場所かなと思います。

あと、トイレのことに関してはやっぱりすごい大事で、ポータブルのトイレってというのは、やっぱり女の子には特に女性にはですね、非常に使いにくい。小さければ、小さいほど。逆に男子、ちっちゃい男の子だったら、万が一のことがあったら外でできちゃう。「じゃこれなんなの？」みたいな話もあったりするので、そういった本当に使える、皆さんが使える情報って

いうのをお渡しするべきかなと思います。なので、トイレを渡すんだったら、やっぱり自宅で使えるその形式。こういったものが実は使えるものなんだっていうことを伝えるだけでも、やっぱりトイレの防災が広がるので、そういった本当にわかりやすく、ハードルを下げてお伝えするというのが大事かなと思います。

○中島委員 私は皆様のような防災の専門家ではないので、本当に言うことがあれなんですけど、今富川さんがおっしゃったようなお話って、レベル設定としてすごく大事な話かなと思います。これを都民に全戸配布するっていうことを前提に考えると、かなり初心者向けのレベル設定に多分した方が良い。辞書的な使い方をするっていうことはもちろんすごく大事なことですけれども、それでもこの2冊分の厚みじゃ絶対収まらないぐらい、いろんなことがあると思うんですよね。あと難しい専門的なこととかもたくさんあって、そうなんですけれども、それって多分ほとんどの人には読み流されてしまうような情報になってしまう。誰に向けた本なのかというと、防災知識ほぼ0っていう都民に向けてだと思うので、まさに私たちずっと防災のこと考えてきたっていう、富川さんの話ありましたけれど、何も知らないし何もわからないみたいな人に向けて伝わる情報、その人たちがそれでもアクションが一步できるっていうことが一番大事かなと思います。そうすると、最低限これを伝えて、ここは取捨選択で、今回は落とすとして、それは二歩目のことだから、一步目としてこれが必要だよっていう選択がしやすくなるんじゃないかなと思います。もし自分が本を編集するとしたらそういうことをまず考えます。

もう一つのアクションにつなげるという話なんですけれども、度々今日のプレゼンでも出てきたんですけど、トイレの話とかすごく大事なことなんですけど、トイレがまず大事ってことがまず分からないっていうか、なんでかねみたいな、公衆トイレ使えばいいんじゃないのみたいな。いやでも首都直下型地震が一番まずい時間に起きたとしたら、公衆トイレに並ぶとしたら十何時間待つんだよとか、そういうことをリアルに言ってもらって、すごく心に響くっていうか、「なんだそういうことだったのか」みたいな、自分事として考えることだと思うんですよね。中林先生も関わられてらっしゃった被害想定のお話って、本当に大事なことで、「あ、自分の生活こうなっちゃうんだ」みたいなことがすごくリアルに、「あ、もう東京都のこのぐらいの面積のものがダメになっちゃうんだな」とか「トイレ行けなくなっちゃうんだな」とか、そういうことがわかるってすごく大事なことだと思うんですよね。そこをデータとして、数字なんですけれども、それをいかに具体的な像として描いていくか、例えばこういうストーリーなんだよっていうことを頭につけて、「あ、こんなことが起きちゃう。だから備えよう。」しかも誰かに助けてもらうだけじゃなくて、自分はこういうことしておけばとか、自分は共助の気持ちがあれば救える命が絶対にあるよっていうことを。それで、0から1でいいんだよっていうことを伝える本にするっていうことが一番大事で、やっぱりどうしても難しいことをこれも正確に伝えようと思うと難しくなっちゃったりとか、どうしてもしちゃうんですけ

ど、そこはちょっと一回取っ払って考えていくといいのかな、取捨選択はしやすいかなと思いました。

あともう一つ、自分でカスタマイズするっていう考え方を伝えられるといいのかなというのをすごく思っています。プレゼンでもちらっと伝えたんですけども、例えば、コンタクトを使ってる人は眼鏡が必要でしょう、防災袋に入れておきましょうみたいな話ってあると思うんですけど、コンタクト使っていない人には関係のない話だったりもしますよね。あと、例えば常備薬のある人は絶対入れておいた方が良く、でも特に今無いなみたいな人だったら頭痛薬入れようとか、その位でいいかもしれない。お腹痛くなったりっていうのは、胃腸薬ぐらいでいいのかもしれないですし、でも常備薬いつも毎日飲まなきゃいけない人にとっては命取りになることがあったりとかもしますし、そういうふうに分人にとってとか、人の正解は自分の正解じゃないし、あとトイレの話もそうなんですけれども、たまにこういうふうにして防災のお話させていただく際に、何が必要だと思えますかっていうと、かなり皆さんこの10年で知識が伝わってるんだなあということを感じるんですね。セミナーにいらっしゃるぐらいなんで意識が高いんだと思うんですけど、例えばアルファ米とかみたいな話とかも出てきたし、いわゆる防災という乾パンが出てくる、そういうことじゃなくなってきたんだなみたいなことをすごく思うんですけど。例えばこの簡易トイレ用意してらっしゃる方って結構手をあげられて、じゃあ使ったことある方っていうと一気に減るんですねとか、あと凄いいちっちゃくなる毛布ありますよね、エマージェンシーシート。あれを持ってる方っていうと結構いるんですけど、じゃあ屋外で使った事ある方っていうといないんですね。でも使ってみると「あ、こんなぐらい温かいのか」とか、じゃあこういうものはいらぬいなあとか、トイレも「あ、これは使いにくいけど、これだったらうちのトイレだったら行けそうだな」とか、富川さんさっきおっしゃったようなこととかも、自分のリアルとして実感できるし、あとそれをやっておくことで、じゃあこれを備えようという具体的なことにもつながっていきますし、いざとなった時にパニックにならない、使い方がわかんないって、たぶん非常用トイレの使い方わかんない人ほとんどだと思うんですね。用意してたとしても。なのでそういうことを、これを全部用意したら終わりじゃないんだよっていうか、生きた知識にするためには、自分がまずやってみると安心なんだよってことを伝えられるっていうのはすごく大事なんじゃないかなと思います。

○中林委員長 はい。ありがとうございます。大分、論点の1番目と言いながら、2番目とかあるいは3番目についてもお話はしていただいたのかなと思います。私今日、自分のプレゼンであえて耐震化を最初に話したのは、一番大事なのは、トルコの(地震の)一週間目ですから、あの亡くなった35,000人もの人は今の話は全然いらぬんですよ。死んじやったんだから。生きてることを前提にして防災を進めるんですね。すぐやれることも生きてることを前提にやるんですけど、その前提は、あなた生きられますか?っていう話なんですよ。生き延びて、それで家を失ったらどうなる?死んじやったら、やっぱりそこでジ・エンドなんで、どうしても耐震化で命を守ることをどうするかっていう課題は私にとっては抜けきれないんです。

でも、そこから入るとたぶんだめなんです。一番最後に、あなたこれだけ準備しましたね、これを活かすも殺すもあなたの住宅が壊れないことです。どんなに備蓄しても家が壊れたら取り出せませんし、家具が転倒して取り出す側が下向きに倒れてしまったら、備蓄品も結局取り出せないまま避難しなきゃいけない。だから家具の固定とか家の耐震性っていうのは、あなたの努力を活かすためにもぜひともやっておいてねっていう、本の最後にそういう基本対策のプレゼンをきちっと入れておくということが大事なのかなと。そういう意味では、今の「東京防災」の記事の並び方っていうのが、時間のタイムラインになってるような、なってないような。事前にやっとなきゃいけないことがほとんどではあるんですが、でも事後にやらなきゃいけないことがバラバラと出てきたりしているので、そういう意味で全体の大きい筋書きがやはりちょっとだめっていうか、知らない人ももうちょっとすうっと事前の日常から入って、被災したら何が必要になるのか。まず最初は、自分は生き残っているでいいんです。それ考えて初めて、じゃ被災後に生きるためになんか買おう、なんかやろうってなるはずなので。だけど最後あなたの家は壊れませんか、大丈夫ですか？っていうところをきっちりチェックできるような形で見えておくことが大事。そういう日常から被災後への筋書きのタイムラインで、最後に自宅の耐震化の取り組みだけフィードバックするんです。壊れたらダメなので壊さないために何が必要なのか。そこで、新しく東京都が出した木造だったら2000年基準への補助もしますと。

あれこれ書いて補助しますって都が言ってるんだけど、実際には区市町村が動いてくれなきゃだめで、都まで申請持ってくるわけじゃないですよ。ですから、今回この本を出すに当たって、区市町村と、今回都が新しく展開しようとしてやっている対策とかをどう連携してやるのか。区市がやることになっていけば、そういうことをあなたの住んでいる区市に対して問い合わせてくださいっていう話になるんですよ。

当初、「東京防災」を配った時、本は一緒だったんだけど、お土産付いてたんですよ。各区市の防災マップが。

○鍵屋委員 それがすごく評判が良かったです。

○中林委員長 それを渡してたんですね。だけど、その防災マップを入れるよりも、もうちょっと他の物でもいいのかなと思います。ですが、どうしてもやっぱり書く側から言うといろいろと書きたくなるんですよ。そうするとページが増えるから、文字が増える分、イラストを減らすしかこのページ内で書き込めないの、どこまでイラストを減らせるかということになる。でもイラストを減らすことは、読む側から見ると絵があることで随分理解を強めるので無理かなとも思う。

そうすると、もうあとは飛び道具で新しい本づくりするしかない。実は、細かい内容までこの本に収めるのじゃなくて、都庁のサーバーとか区のサーバーに入っていて、あれこれもうちちょっと知りたいっていう時には、QRコードでスマホに取り出す。スマホにその記事が出てきて、

そこで見ることができる。そういう、言わば東京防災は防災ハンドブックで、深く知りたい人はQRコードでどんどん読み込んでください。そういう本、“東京防災の体系”の中の入り口として「東京防災」や「くらしの防災」という冊子を位置づけて、これだけで「えっ、もうないの？」と完結させるのじゃなくて、デジタルデータとつないで、QRコードからもっと奥深いものを学べる。そういう企画の一部として冊子を位置付けないと、多分、本当に役に立たないんじゃないかなっていう気もするんですね。だから、デジタル的な情報の展開を前提にして、今回、冊子本を編集し、改訂するという発想の大転換です。場合によると必要な項目をちょっと解説しておいて、これはどういう状況、例えば属性で言うといろんな属性があるんですが、そういう人にとっては「私にとっては必要なのは何かしら？」っていうのをQRコードで入ってその属性で見ると、いろんな細かいことがわかるというようにする。あるいは、タイムラインの流れの中で、「こういう状況になったらどうなるの？」っていうようなことも、そのタイムラインの流れとしての状況をQRコードから読み取ることができる。さらに、そこには映像もあったりしてね。

今回の被害想定で、49項目だったと思うんですが、特徴的な項目を設定して、シナリオ想定ということを取り組みました。あれ、ある事態がどのように推移するのかという時間別でのタイムラインなんですね。その日、翌日、数日後、1週間後、1ヶ月後ぐらいまでですけども、そういう形で色んな「断水っていつぐらいまで続くの？」とか、「停電ってどれぐらいなの？」とか。実際に災害が起きた後は、QRコードをみんながやっているとそれだけで大混乱して、情報が途絶するかもしれないけども、そういう被害の推移をタイムラインで読み取れる。これらを活用して読み取らなきゃいけない事態もいっぱい設定して、そういう防災シナリオをいっぱい作っておいてデータベース化し、そのカタログ的な入り口として冊子体を作る。これだけ見ても、おおよそこんなことが必要なんだよねっていうことがタイムラインとか、それから属性で読み取れることで、いろんな人に寄り添っていけるような企画構成が良いとも思います。

一つでも二つでもQRコードでより深く見たいところが出てくればつながっていく。その後のアクションが、さっきの自分事にするということ引き出されるのです。だから、やはり自分事にするっていうことをちゃんと書き留めておくページが必要なんです。洪水対策で東京のマイ・タイムラインがいかに優れてるかって、単独ではなかなかやらないんだけど、あれで結局自分のプランを書くんですね。自分のプランを書くとか、私はどうなっちゃうんだろうということを書き込んでいくことが重要なんです。防災の世界で言うと、「目黒巻」っていうのが有名なんですけども、時間とともに私の生活どうなっちゃうんだろうっていうのを書き出していく。そういうシートを冊子に付けてあげることで、家族で相談しながら考える。実は東京は多分、小中学生でもとんでもない通学距離の子がいっぱいいるんだよね。そういうような家庭と、普通に近所の公立学校に行ってる家庭とでは、災害時の子供の意味が全然違うし、そういう自分の課題を書き出しながら、ちょっと手が止まったときに、その項目が検索できて、QRコードでより詳しく見れる。そんな関係でまとめられると、良いかなって思いました。今日の二

番目の論点である項目を精査するっていうよりも、記述はどこかに細かいのがあって、それをどう読み取るかっていう道具として、幅広く項目を取り上げ、体系的に整理してある本があります、という形で企画全体を考えていただくことが大事なんじゃないかと思いますけどね。

○鍵屋委員 東京都のホームページはね、見ていくと結構良いものがたくさん素材はあるんですよ。だから、これからQRコードをパッと見て、これについてはここって言った方が良いでしょう。

○中林委員長 それから検索するんだったら、このワードで検索しなさいとかって教えてくれるとね、ぽんと当たるんだけど、1字違うだけで全然当たらなかったりするからね。ホームページの情報とかホームページに東京防災デジタル版ってのがあって、それとこれが常につながってるんだよっていう形でものがあると。冊子というハードと詳細な説明はデジタルというソフトとして存在している。行動を導き出すには、やっぱりその前に自分事としてどうなるか、何が必要かを書き込みとかメモするとかそういうようなことがあるとすごく行動につながるんじゃないかなって思いますけどね。

○鍵屋委員 100人が100人じゃなくてもね、50人でも60人でもやってくれれば社会的に効果が高いっていうのがあるんです。一方で全世界配布なので、少なくとも100人が100人はこれはやってほしいよねというものはある。

○中林委員長 マンションの人にはやっぱりマンション防災の奥の奥があるので、それは書いてたらそれだけで東京マンション防災として一冊になっちゃうので、それはデジタルとしてアーカイブされているんですよ。都のデータベースにあって、この本でそれにつながってる、っていうことが大事なのかなと思うんですよ。

○富川委員 優先順位ってやっぱりすごく大事だと思うんですよ。今冊子離れもしているので、そういった圧倒的多数の方々が、それをスマホで連動できるとか、そういうことは本当に大切だと思いますし、あと、東京防災に付いたハザードマップっていうのは、やっぱり自分ごとに考えるきっかけにはなったと思うんですね。あのメッセージはすごく良かったなと思っていて。ただハザードマップを見るってすごく億劫なことなので、例えばこれがその反映されるかできないかは全然分からないですけど、練馬区に住んでいる、この地域に住んでいる人は、こういう被害想定があるっていうのを前提で、そのリスクの優先順位がこれで分かるようになっていたり、ここから始めようみたいなこの地域の方はここから始めようみたいなことがわかりやすく系統立てられてると私だったらすごい読みやすいかなと思うんですね。例えば、港区と台東区じゃ全然やっぱり備えが、やらなきゃいけない備えて変わってくるので、都が発信するものとして優先順位っていうのも地域別にあるとわかるかなと思います。

○中林委員長 地域特性があるし、家族特性っていうのもあるし、個人の特性もあるし、それがどう反映するかで気になることが違う。住んでいる地域が気になる人もいれば、昼間家族がばらばらになっていることで気になる人もいるし、そういう気になる自分事のどこからでも入れるような形で、冊子はひとつなんだけど、入り方によって出てくる順番が違うみたいな。そういう、データのストッカーがあって、その商品を全部見ようと思ったら見れないから、カタログとしての冊子を見て、私が欲しいものはこの辺かなって言って探し出してみる。そのカタログ的なものとして東京防災があって、でも普通のカatalogだと、まさにカタログでキーワード検索しかないんだけど、これ読んでも最低限の知識というか、理解ができるぐらいのものを作りたくて、項目はなるべく増やすんだけど、詳しく説明はできないので、量に限りがあるということと、絵をどれだけ入れるかですね、イラストをね。どれぐらいの予算で東京都がやろうとされてるのか聞いてないからわからないんですけど、私はやっぱりこれからの時代は変化の多い時代ですが、例えばあるコンセプト、こういう問題なんですよってという概念的な課題は、たぶんそんなに急には変わらないですよ。ところが、その対策としての商品や対策の内容は結構変わっていくので、その部分をデジタルで作っておいていただくと、この冊子が長く使えると思います。最新の情報はデジタルで拾ってこれる。都の報告書にあるシナリオ想定を呼び出すっていうのはすぐしようと思えばできるんです。例示として、まとめたものがパワーポイントで5枚ぐらい公表されています。時間軸に沿って作ったんですけど、ああいうのをたくさん組み合わせて作っておけば、それを見るだけでもいろんなことが学べるし、時間的にどうなのかがわかる。

だから49項目からでも新宿ではっていうと、やっぱりたくさんの方がいて帰宅困難にもなっかってっていう盛り場問題があって、山間では孤立問題が出てきたりする。ですが必ずしも十分とも言えないので、シナリオ想定をもう一度ちゃんと作り直す。特にあのシナリオで全く入ってないのは、論点の三番目の個人の属性というのは全く入ってないので、これはシナリオを少し作っておく。それ全部冊子に載らないから、そういう課題に対してバックアップできるような体制を作っていくっていうことが大事で、そうすると、いろいろな属性の方も私も忘れられてないんだね、っていうことでみんなが目を通すだろう。冊子には半ページしか無いんだけど、実はQRコードの向こうには何十ページ分も載ってるんですという形が、一番私の理想かなと思います。今の時代。だって外国人が旅行に来て何を頼りにしてるかってスマホですよ。多くの外国人にも対応できるんです。

○鍵屋委員 そのスマホが止まっちゃうんですよね。スマホが止まっちゃうので。

○中林委員長 そう。実際に災害が起きた時には、これみんながやると止まっちゃうので、その時のためには、逆に言うと、最低限必要なものは冊子に入れて、外国語版も作っておく。ただ、その前提ではなくて、事前に学ぶ前提として東京防災を使っていたらいい。

○鍵屋委員 そうなんですよね。外国人の方に紙一枚なんですよね、多分ね。紙一枚お守りを入れといてくださいと、そのお守りで何もなければスマホで状況見れるし、何かあったら一番大事なことだけ書いてある。

○中林委員長 最近、外国人にも簡単な命に関わることは日本語で理解してもらうようにしています。ローマ字でHINAN（避難）とか、これが「逃げる」ですよ。そういう形も含めていろんなことが展開してますから、それをいかに東京防災とくらしの防災で冊子として作れるか。これだけって言うと、多分やっぱり5年経ったらなんかちょっと古いみたいな感じになっちゃって。

○鍵屋委員 まあでも5年経ったら東京都だからまた見直して。

○中林委員長 それはSDGsじゃない。

○鍵屋委員 捨てられないものにしなくちゃいけない。SDGsの考え方でいうと配った方がいいけど、捨てられたって一番悲しいじゃないですか。そしてやっぱりこの中に捨てがたいトイレが入ってる。

○中林委員長 カラーやデザインというのは、今2冊ですけど、これは1冊になるんですか。

○事務局 いや、一応2冊のまま。

○鍵屋委員 東京くらし防災だけでいいと思うんですよね、正直言うと。本当にこれはストーリーもうまくできてるし、これに障害のある方や、お年寄りや、赤ちゃんやっていう感じのが、赤ちゃんママが入ってる感じなんですけど、その辺りが入ってて、その後長いことはとりあえずとして、1週間なりがちゃんと過ごせるねと。

○中林委員長 この2冊っていうのは、どういう位置づけ、これ（東京防災）は先発して、後発で（東京くらし防災が）出てきた。今度同時に出すとして、2冊はケースに入れて配ると、そこに袋が付いていて、トイレが付いてるか地図が付いてるか分かんないけど、この二冊の役割分担って何なのっていうことをやっぱりちゃんと一回議論して明解にしとかないと、同じことでなんとなく言ってること違うねみたいなのが最悪なんだよね。

○事務局 そこでちょっと補足よろしいですか。この使い分けについては、今後の皆様の中でご議論いただくというのがあると思うんですけど、一応我々のコンセプトとしては、こちら

(東京くらし防災) が行動につながる、例えば持ち歩いていて何かあった時にも行動につながるっていうような、そういうコンセプトにはしたいと思っております、こちら(東京防災)はどちらかというと、防災の知識ということで、先ほどいろいろお話ありましたけど、例えばQRコードとかで、より深いところに入っていけるような、かなりいろんな多方面の知識をこの中に入れておこうかといった、そういうコンセプトではあります。なので、実際実用的なのはこちらの赤い方(東京くらし防災)がより実用的というか、いざ災害にあった時どうするかという行動をわかりやすく、本当にゼロベースで書くという、そういうイメージではあります。ただ、皆様のまたいろんなところ、ゼロからの目線でちょっといろいろご意見いただいて、より良いものにしていければなということは考えております。

○鍵屋委員 なんとなく皆さん方がおっしゃった、全都民がはじめの一歩みたいなことはものすごく大事なんだろうなと思ったんですよね。私も長くやってるもんだから、細かいところがすごい気になるんですよ、目開けてて避難して良いのかとかね。そんなこと気になるんですけど、まずはじめの一歩として、皆さんに最低限これだけはやってもらいたい、でもそれを我が事化するためには、どういう導き方がいいんだろうかなというのと、レベル的に重点、これはもう絶対必要だよっていうのと、あったらいいねというのと、人によっては絶対必要だけど、人によってはそうでもないねっていうものがあるんだろうと思いますから、その辺りを多分、本当はこれぐらいでいいと伝えられれば。

○富川委員 さっき中島さんがおっしゃったレベル感ってすごく大事だと思うので、これをものすごく薄くして、完全初心者向けで、東日本大震災からも10年以上経って、結構防災意識が高くなってきているのも事実だと思うんですね。なので、これを読んだ人がそのステップアップに使える、もしくはもうやってると思う人がこれを読んだらより深くなるっていうような、それでさらにもっと深く知りたい方はQRでデジタルの情報が得られるっていうようなことでも良いんですか？

○事務局 そうですね。はい、メリハリも大事だと思います。

○富川委員 多分、これが2冊きたら最初皆さんこっち(東京くらし防災)から読むと思うんですよ。簡単そうだから。なので、それだったらそういうふうに使分けしても良いのかなっていう、子供でも読んでわかるような内容にするっていうのもありかなと思います。

○鍵屋委員 知ってても、例えば防災の有名な先生ですね、マンションにトイレ必要なんですかね、って言ってたんですよ。また、大学の同僚から避難勧告と避難指示とどっちが厳しい状況なんですかって聞かれるんです。一般に優秀な人であっても知らないことは知らない。だからやっぱりこれが重要なんですよ。これは皆さんが備えないと災害時皆さんが泣きますよ

と、みんなの大切な人が守れませんよという、そういうことをちゃんと伝えられるはじめの一步というか、初めて最も大事な一歩みたいなものがちゃんとあればいいのかなと思っています。それは時系列で自分が欠かせないものっていうのをちゃんと地震が起こる、こうなるのか。だから、例えば朝起きました、真っ暗でした、どうしますか？朝、トイレに行きたくなりました、どうしますか？歯を磨きたくなりました、ご飯食べなくなりました、何々したくなりました、テレビゲームしたくなりました、そういうのがあって、その中に自分の入れたいものを入れてって、なんとなくこれは今ありますか？ないとかね。そういう感じでこう導いていけるとすごく良いかなと思ったりしました。

○中林委員長 これイラストレーターも違うんだよね。

○事務局 これから委託業者が決まってくるので、その業者によって変わりますね。

○中林委員長 今回は同じもので2冊？

○事務局 そうですね、ただちょっと2冊同じ人にやっていただくのは、なかなか時間的に厳しいところがありますので、違う方になる可能性もあります。提案はこれから受ける予定です。

○中島委員 ちょっと本づくりのことで。今富川さんからお話がありましたけど、入門があって、知識があつてみたい、あと中林先生のQRの話と。まずこっち（東京防災）が作られて、その後女性向けってことでこちら（東京くらし防災）が作られたという経緯を考えると、やっぱりこれ（東京防災）を作った時にこういうもの（東京くらし防災）が出るってことはあまり想定されてないので、これ（東京くらし防災）はこれで独立したものとして作りましょみたいな感じだったので、結構やっぱり著述されてることが被ってるなあっていうのもあったりして、それは今お話が出てますけれど、棲み分けをちゃんとした方が多分いいだろうなと思うんです。もし自分が編集するとしたらまず右開き、左開きを統一するなみたいな。デザインのこっちが縦でこっち横なので右開き、左開きとか逆なので、それをたぶんちょっと大変なんですけど、整えるだろうなっていうのと、あとデザイン的にもコンセプトチュアルにして、セット本なんだなみたいなことを、中のイラスト別に違ってたって全然良いと思うんですけど、少なくとも側として、これを2冊知ればベースの知識身に付くんだなみたいなことがわかるような、このセット感ということをやまずする。あと同じテンションで読めるじゃないですけど、右開きのもの、右開きのものみたいな感じでということをするだろうなということと、あと入門編と知識編に分けるのか、それとも備えとか事前にできる事編とか事前の知識として得られること編と、当日起きてしまったら何をすれば良いのかだったりとか、普段何をしておけば良いのかとかの行動のことっていうことで分けるのかどうか、分け方ってすごく色々あると思うんですよ

ね。もしくはベーシカリーに全員が知っておいた方が良く、あと個別のことに対応できるってことで分けることもできますし、本当に色んなフェーズで分けることができると思います。なので、割とそこって本の肝になるところだと思います。今言うと、やっぱり要配慮者の著述っていうのが圧倒的にこの（東京防災の）時に足りなくて、どんどんこれが重要性っていうのはすごく大きくなって、今の都民のことを考えると、そういうのが大事ってことであれば、個別なことをこっちにすると良いかもしれないですっていうことかなと思います。

ただ、どのぐらいリニューアルされるのかっていうことに、それって相当大きく関わっていて、今のことをやろうと言えば、ほぼ全とっかえなんですよ。書いてあるテキストの並べ替えとか、イラスト並べ替えとか、そういうことで済むことはいっぱいあるんですけど、多分、かなりもう本当に全部壊して再構築していくっていうことになると思います。それをされるのかどうかっていうこと次第でどういうふうに組み替えるかっていうことになってくると思います。あと、でもこれをベースにしてこういうページを増やすとか、ここを取捨選択するか、例えば、この（東京くらし防災の）時ってすごい北朝鮮のことがあったので弾道ミサイルの話も入ってるんですけども、そういうこととか、あと液体ミルクのことがちょうど端境期だったので、そのことが入っているんですけど、そういうことは抜いて、っていう調整なのかっていう、そこをどうされるか、もうかなり崩して良いんだったら、たぶん、こういうふうに分けるかということも新たに考え直して、それでどういうふうにしていくかで、ページ数もこの分量にするのか、それとも半々にするのかっていうことにすればいいと思いますし、あくまでもこうするんだったら、もうここをベースに考えて取捨選択しかないですかってことを考えるってことかなと思います。そことか厚みのこととかもそれなりに決まっていた方が、今後どういうことを取捨選択していくかっていうこととして、やりやすいと思うんですよ。

サイズは、私はこのハンディサイズがすごく良いと思うんですけども、そのこととかももし決まるのであれば、予算のこととか、厚みのこととかってことだったんで、そこを決めていただいて、その上で議論した方が多分より深まるんじゃないかなというふうに思います。

○中林委員長 はい、ありがとうございます。ちょっとそのご意見を踏まえて、都としてどこまでやるかっていう議論を作っていただいて。業者っていうのはコンサルタント系というようなところ？

○事務局 総合的に実行できる場所なので、広告代理店ですとか、あとは印刷会社がまず原稿作成を行っていただきます。原稿はそこから再委託なりデザイナーの方、クリエイティブの方に委託することになると思います。

○中林委員長　そしてそのデザイナーやイラストレーターは、多分、文章ができてそれをイラストで表現するんですね。それを我々がチェックするみたいな話かもしれないんですね。その文章化ってのはどこがやる？

○事務局　文章化も業者委託の中でやります。

○富川委員　今その委託候補になっていらっしゃるの、この内容をリニューアルということで、皆さん話を聞いてるんですね？2冊まるっと新しいものを作るっていう前提で多分お願いしてないんですね？

○事務局　基本的には、大きなコンセプトは同じものとしてベースとしてありながら、本当に全部なくして建て替えるというよりか、本当に一部を取り替えたり、わかりやすく表現していくというような形で受け止めていると思います。

○富川委員　体裁を変えるとかっていうのはありなんですかね。

○事務局　体裁もデザインもあります。

○中島委員　だとすると、やっぱり当日の行動とか、普段できる行動編ってことと、最初から出されてる知識編とかだと思んですけど、そうなるここにも知識のことが入っちゃって、こっちにも行動が入ってる。行動のことはこっちにしようみたいな、で、テキストを対応するものを同じイラストレーターで書き換えるとか、そういうことは全然ありだと思うので、その一回精査をするっていうベースですね。あと、それぞれにこういう視点を足した方が良いんじゃないかっていう精査をしている段階だと思うので、業者さんの提案というのはいつになるのかちょっと私たちわからないんですけど、それをベースに結構具体的な整理、同じことが被ってて、それをベースにするとどういうふうに分けられるかっていうのを出していただくっていう感じかもしれないですね。

○鍵屋委員　なんとなく知識編・行動編というよりは、備え編と行動編みたいな感じが良いのかなと。起こる前に備えておくべき。どっちかという、物の備えと、それから起こった時に何をするかということも。ちょっと重なるところもあるんですけども、その行動をちゃんとやるためにはこういう備えが必要ですよってなりますよね。ちょっと難しいのは、わざわざ切られると、ここ見て、それでまたこっちを見なきゃいけないという感じもある。またこれを見たら、備えと行動があるからこの備えが必要って言った方が良いような気がするんですよ。やっぱり多様性、みんなに必要なのが例えばこっちで、こっちの方はそれぞれの多様性を踏まえて作ってますっていうのもあるかなと思っていますよね。

○富川委員 それが一番スマートかなと私も思うんですけど。

○中島委員 これを基本的にはベースにされるってことだったんで…

○鍵屋委員 それくらいはやれますよ。新しいことやるんじゃないの。ほとんど新しいことじゃなくて、これをそのまま使うのであれば、この業者の方が一番安くできるわけですよ。

○富川委員 前回これ（東京くらし防災）に携わらせていただいた時に、結構できたものを私たちが赤を入れたってことがあったんですけど、今回ももしそうなのであれば、一回原稿ができてくるってことですよ。

○事務局 そうですね。原稿、構成がまず出来上がって…

○富川委員 その前に、私たちが意見できるのかどうかってすごい違うと思うんですけど。

○中林委員長 こんな構成でどうでしょうかぐらいのことを我々に一回上げてくれないと、結局赤入れるって、てにをはのお話しかできないのって話になっちゃう。

○富川委員 そうなっちゃうと、多分中島さんがおっしゃったように、これをオールリニューアルということにはならないと思うですよ。

○中島委員 レベル感の違いっていうか、この2冊のコンセプトにしても、どういうふうに作り分けるのかっていうことを、軸を決めていただいたら、今意見で出たのはみんながベース、できることで、ほか知識っていう話だと思うんですけども、それを採用されるかどうかっていうのはもちろん都の判断なんですけど、それにすると、どういうふうに振り分けてくのか、どうやって精査するのかっていう案をいただいて、それをまた私たちの方でお話聞くっていう感じにできるのか。

○鍵屋委員 目的が何なのかっていうことをもう一度、それは簡単に言えば、要するにこれを備えること、家の耐震化、家具をちゃんと固定すること、トイレ、水や食料を備蓄すること、そしていざというときに連絡がちゃんと取れるような準備をしておくこと。そういう行動を都民がするというのが目的なんです。それに向かってどういうふうにしたらそこにつながるだろうかという、それがコンセプトになるんじゃないですかね。そここのところの議論をもうちょっとしないと、多分一般的なこと全部、そうすると、これをしなきゃいけない、家具は何とかして倒れないようにしなきゃいけない、離れ離れになってる時にどうやって連絡を取ったり、

安全を確保しなきゃいけないかということを知らなければいけないというように、重要度がレベル分けされるのが、大事なんだろうなど。それに結びついてほしいわけです。その結びつき、それが大事だよってことを言っても、「あ、大事なのね」で終わらないで、なんとかそこに一工夫がほしいです。だから、自分で書けるようになるとか、あるいは応募するとか、誉めてもらえるとか、そういうこの本で知識を与えるっていうだけじゃなくて、行動変容に導く何かしてほしい。

○中林委員長 これ（東京くらし防災）160 ページ、こっち（東京防災）300 なんページなんで、合わせて500 ページ弱かな。そのボリュームの中でどういうふうに分けるかで、厚さはこの厚さではないかもしれないし、こうなるかもしれない。例えば、災害種別の防災対策編（東京防災）と属性別の災害対応編（東京くらし防災）として、特に災害対応行動としてやっぱり誰もが身近に防災を見直すきっかけというのは、さっき鍵屋さんが言った、私の一日の生活ってなんだろうって思う。それには書き込みノート型であって、今日は何をして、今日何やってとか、昨日何時に起きて何やって、何時に寝ましたっていう、そういう1 ページ作ってですね、その中で何が気になるのって、これもう東京花子さんかなんかの一日の様子で、例えば朝起きたら夜地震があつて、うちが断水してるとか、地震どこで起こすかわかんないですけど、断水したら朝顔洗いませんねから始まって、そういうことを一日の生活で、もしライフラインが止まったらどうなるの？とか。そういう形で読み解いてみて、「いや、こんな大変な一日になるんだ」っていうのを理解してもらいたい。

特に私から言うと、もうこれが一番ポイントだろうって思うのは、私の一日の生活の中で最も気になる項目にシールを貼ってくださいです。自分の生活でもここが私にとって一番ワークポイントかなみたいなことを再確認し、それに対する解説が簡明にあつて、それを事前に備えておきましょうねっていう課題発見を入口にする。で、実際に災害が起きた後、じゃあどう行動するの？っていうのをよりリアルに具体化した話ですとか、あるいは地域はどうなってるの？っていう地域の話とか、私の生活、くらしから入るんだけど、じゃあ東京の場所によって、あるいは地域によって、さらに発災から地震中心にまず考えるんでしょうけど、地震が起きてからどういう時間の流れで一ヶ月を過ごすの？っていうのを読み解いていく。だから被災後のタイムラインとして、じゃあ我が家は一週間後どうなってるの？っていうのが今度は書き留めるような形で作っておく。じゃあこちらはどっちかっていうと書き込み方もある程度書き込むことがいっぱいあつて、こっちはそれを助けるための支援もあつて。で、詳しく知るにはQR コードで飛んで。そんな構成で、若干重複はあるんだけど、対策編と対応編とが縦糸と横糸の関係になって、必要な知識と対応行動がつながっていく。そういう形が入りやすいかなと思うけどね。その中に、お一人様一枚しかないんだけど、家族がいるとやっぱりお母さんの一日で、お父さんの一日、おじいちゃんおばあちゃんの日、子供の日ってのがあつて、それをやっぱりちゃんと一回書いてみるために書き込みノートは複数分用意しておくみたいな。

○鍵屋委員　そうですね。それがあって、デジタルでそれをパッパできるようになると。その勉強会を、そのアクションの勉強会・研修みたいなのを学校でやったり、町内会自治会でやったり、それを広げていくみたいなの、災害時のマイ・タイムラインをやっていく運動と一緒にこれを使えていくとすごく良いかなと思います。人の特性がそれぞれ多様性がある、地域の多様性がある、あるいは居住形態の多様性がある、マンションなのか戸建てなのか、都営住宅だったり、賃貸住宅なのかって、やっぱりそういう居住、その多様性がちゃんと盛り込まれていて、なおかつ全員に大事なことはこれ、で、その居住形態、地域形態、人の多様性によって、それぞれ違うところがありますよねっていうのが、もう一つ大事になってくると思います。

○中林委員長　住んでいる住宅の形式もひとつの属性で、そういうのも対応編で、マンション住んでる人はマンション問題として当然入らないといけない。マンション問題とはこんなことなのっていうのは、対策編にあるんだけど、具体的には対応編っていう形のつなぎにしてい。だから、一日起きて生活だけじゃなくて、その全体家族のどんな住まいですかとか、誰にはどんな備蓄ですかとか、というのが属性別にあるのかもしれないしとかね。

○鍵屋委員　マイ・タイムラインを書く時の参考書っていうか、解説書みたいな感じの方が面白いかもしれませんね。地震災害直後の生活のマイ・タイムラインを考えているその解説書がある。で、じゃあ何をしなきゃいけないかということにつながっていく。勉強会だとそれが良いですね。

○中林委員長　だから、そういう意味では今回この二つだけど、どっちかってこれ地震が大部分で、付け足し的に水害とかだと思っただけど、じゃあ逆に言うと水害ってやっぱりもう一冊マイ・タイムラインもあるんだよね。だから、より詳しくあなたが水害的にどういう事前に避難するのはそっちやってくださいって飛ばさないといけないので、それまでここ入れたらもうとても400ページに収まらないかもしれないが、対策編と対応編で、知識と行動で、自分に必要なものをピックアップしていけるようにしたいね。

○鍵屋委員　これは今回のは地震でいって、で、ほかのところは飛ばせば良いというふうにした方が良いでしょう。

○富川委員　今回は地震でいくんですか？なんかそれも大分議論するべきじゃないかと。

○中林委員長　地震だけじゃないということではあって、それも非常に大事で、ただ、縦割りじゃなくて、つながってるんですよ。例えば、避難する時に持って行くものって、地震でも水

害でも全く同じなんですよ。持って行くものは。だから、そういうふうにも共用で使えるものっていうのはかなりあるはずなので、そこを前提にしてハザードが変わっても使えるものからハザードが変わったときにはやっぱり必要なものっていうのがあるから、それを別書きしておくっていうようなことかなと思うんですよね。

○事務局 すみません、時間がかかり。申し訳ないですけど。次回の委員会ですけれども、今スケジュール上、4月中旬頃に開催したいと思っております。先ほどご意見などありましたとおり、原稿が出来上がってチェックしていただくというよりかは、これからの業者委託で4月1日から業者が動けるようになったりですとか、この間我々の方でもいただいた意見を受けて、原稿の構成ですとかコンセプト、こういったものを整理していきたいと思っております。業者には3月に提案いただくので、デザインのアイデアとか構成のアイデアとか、そういうものも出てきますので、ぜひそういったものをご覧いただきながら、次回議論したいと思っております。その間でちょっと色々ご意見を伺う機会も出てくるかと思っておりますけれども、ぜひご協力をいただければと思います。

○中林委員長 本のタイトルを変えないんだったら、やっぱりこっちくらしで一日、「東京の一日くらし防災」、こっちは「東京防災」でおかしくはない。

○事務局 ありがとうございます。事務的なところで一点ですが、今日の資料、第一部のものについては公開をさせていただきたいと思っておりますので、後ほど議事録の確認などお願いをさせていただきます。いただいた資料の中で、権利の関係でちょっと曖昧なものがありましたら是非お知らせいただいて、どこの資料から引用してますといったところを付けていただければと思いますので、そちらについてもまたご相談させてください。長時間ありがとうございました。事務局からは以上です。

○各委員 ありがとうございました。

午後5時25分閉会